

# 自然と科学の

## 調和がとれた南国市に

五十五年度の最終日、三月三十一日の夜、日章地区公民館（竹島益雄館長）で、市政こん談会が行われ、市政の現状や地区の問題が出されました。

地元からは各部落から十五名のみなさんが、市からは、小笠原市長や唐岩企画財政課長、吉永産業経済課長らが出て、意見交換をしました。

小笠原市長はいさつこのなかで「この小学校は、私の母校です。五十年ぶりに帰ってきました。み

なさんのご理解とご指導によって、市長の座をけがしていますが、五年数カ月になっても、まだ、わからないことが多くあります。

私のことを、官僚的だとか、開

発主義者だとか言われる方がいますが、私はそうは考えていません。

今の南国市では、地方自治法のとおり、市のことは市だけでやっていくという訳にはまいりません。県と市とは対等だという基本線の上になつて、やはり、国や県と緊密な連絡をもって、援助を受

けなければならぬと思います。空港の拡張、整備は、時代の流れで仕方がなく、この中で、いかに市民のぎせいをなくするかということに一番留意してきました。

もう、今までのように、みんなが農業経営で生きていける時代ではないようです。南国市を、自然と科学の調和のとれた都市文化と工業の調和のとれた都市に育てたいと思います。例えば、空港を最大に活用して、公害のない、高付加価値の電子工業などの誘致も考えられます。」と主観も交えて、幅広い見地からの南国市を語りました。

続いて唐岩企画財政課長から、「市の財政が赤字なのは、その使い方にも原因があるのではないかと、赤字は大いに反省していますが、高知市を除く県内の市と比較したら、税収も多いし、市民の暮らしも豊かです。現況は苦しいが、立地的にも恵まれているので、必ず、近い将来、再建して、発展すると思います。」

希望がもてる将来像が必要だと

いうことで、五十六年度から総合計画づくりに取り組みます。

いずれにしても、空港と高速道路の整備で、文字通り、空と陸の玄関になりつつあります。」と報告。

吉永産業経済課長は「山間部では、二つの事業を行っています。

こちらに一番関係の深いものは、やはり、転作でしょう。

転作の制度は、みなさんのお考えに背いた方向に進んでいるとも言えると思いますが、割り当てられた一、八四四畝を転作しないと計画加算金（五十五年度は約三億二千万円）がもらえないことになります。もし、こんな状態になると、ただでさえ厳しい農業経営には、大きな打撃になります。最悪の事態を避けるためには、農家のみなさんのご協力がどうしても必要です。」と理解と協力を要請。

### 質問や意見交換では...

□転作をすすめるのなら、その作物の営農面からの指導を...

□香南中ができて、二年が経つが、その周辺の整備がいくつか必要だ。市役所から見にも来たが、何一つまだ終わっていない。

□都築紡績を誘致した際、地元と市で交換した「覚え書」の内容がまだ実行されていない。

□阿佐線はどうなるだろう。

□中学校の暴力、非行は困ったものだ。精神的によい生活をめざすべきだ。

□空港拡張に伴う騒音問題が、今後の大きな関心事だが、民家防音は、コンター図によるのではなく、部落単位で実施できないものか。

□黒沙ラインは、提防にそつてというのが、久枝部落の希望だった。それが部落の北側を通ることに決つたと聞く。提防の北側へ小さな道路をつくっていただきたい。

※この夜のこん談会で受けた印象は「市政への根強い不信任」で、市政を行う上で、安易な約束をしてきはしなかつたかなど、いくつかの反省点があげられます。市民に信頼されない市政などあり得ないことで、南国市全職員は信頼感の回復、確立のため猛努力をしなければなりません。

